

資料9 東日本大震災における本県の主な原子力施設の状況

(資料9 東日本大震災における本県の主な原子力施設の状況)

県内の主な原子力施設の状況

茨城県内の原子力事業所においては、3月11日の地震及びその余震により、敷地内の施設の一部に被害がありましたが、原子炉などの重要な原子力施設には影響がなく、環境への放射性物質の漏えいなどは現在認められていません。

1 東海第二発電所の状況

(1) 震災時の状況

① 地震発生（震度6弱）

- ・原子炉は自動停止
- ・外部電源を喪失

② 津波発生（最大遡上高5.4m）

- ・非常用ディーゼル発電機3台が起動しましたが、津波の影響により1台が停止したため、3系統の冷却系のうち、1系統が停止。

③ 冷温停止

- ・正常に稼働していた非常用ディーゼル発電機2台による2系統の冷却系により、原子炉の冷却を進めました。
- ・外部電源復旧後は、通常どおりの冷却系により、原子炉を冷却し、3月15日、冷温停止に至りました。

(2) 安全対策

① 電源の確保

- ・低圧電源車を4台配備済み
- ・大容量の高圧電源車5台を配備済み

② 除熱機能の確保

- ・大容量ポンプ車、ホース車などを高台に設置済み
- ・海水ポンプ駆動用モータの代替機を配備済み
- ・大容量ポンプ車などから原子炉などに直接注水できる専用配管を設置済み

③ 浸水、津波対策の強化

- ・原子炉建屋などの扉の水密性を強化済み
- ・高さ18m～20mの防潮堤の設置を予定

2 その他の原子力事業所の状況

東海再処理施設の使用済燃料プール水の溢水や建屋壁などのひび割れ等がありましたが、環境への影響は認められていません。